

(平成 30 年度第 1 回 湘南港利用者懇談会資料)

## 指定管理業務実績 (11 月まで) の報告

### 1. ヨットハーバー業務に係る総括

東京 2020 オリンピック競技大会を 2 年後に控えた今年 9 月、開港 54 目を迎えた江の島で、初めて開催されたセーリングワールドカップシリーズには、世界中 44 か国から 466 名のトップセーラーが集結しました。

当社といたしましては、「期間中占有利用される艇置場確保のための調整 (ごみ集積場を自社で整備し移設)」「大会に伴いバース移動をする艇の対応 (移動中の艇の出艇の導線を整備)」「相当数を受け入れられる臨時駐輪場を自社営業のかもめ駐車場に増設」等を行うほか、昨年要望の多かったクレジットカード決済サービス (外国人利用者向け) を導入、また、昨年度国際大会を迎えるにあたり作成した「英語版のパンフレット・英語版利用者案内・各種届出用紙等」に加え、「英語表記看板を増設」し、サービスの向上を図りました。

さらに、大会期間中の休港日は、大会の運営に滞りがないよう、昨年度に引き続き自主事業で社員が出勤し、レースの対応営業をいたしました。

このような状況の中、湘南港の通年ご利用者の皆様には、大会運営にご協力をいただきありがとうございました。



## 2. 維持管理業務に関する総括

### (1) 施設維持管理業務

- ・「休憩棟及びセンタープロムナードの引戸の老朽化による不具合箇所修理」「破損したトイレの便器交換」「劣化したポンプの高圧給水ホース取替修繕」などの業者への発注のほか、施設内地面の剥離したコンクリートの修繕や、ハウス避難階段の塩害に伴う錆被害の修繕、緑地トイレ・ベンチ等の小破修繕は、自社により実施することで、経費節減を図っています。(添付写真資料)
- ・北・中央・西・南緑地及びセンタープロムナードの専門業者による除草剪定に加え、ワールドシリーズのウェルカムフェスティバルにあわせ、社員による北緑地の除草を追加実施いたしました。
- ・9月の休港日に国際レースが続けて開催されたことに伴い、当該休港日の清掃委託の追加を実施、また、ワールドシリーズのウェルカムフェスティバルの会場となった北緑地トイレは、特別清掃を実施いたしました。



### (2) 駐車場管理業務

夏季は平日においても駐車場利用が多いため、7月14日(土)から8月31日(金)の期間は駐車場担当者を1名増員して対応いたしました。

### (3) 災害時対応業務等

台風等により施設被害が予測される場合は、「災害時行動マニュアル」に基づく予防行為として、社員による港内点検を強化し、陸置艇、係留艇のロープ補強等を行うなど被害の防止に努めておりましたが、9月末日から10月1日未明にかけて江の島を直撃した台風24では、干潮の時間帯であったため昨年のような越波はなかったものの、最大瞬間風速43.5mにより、クルーザーヤードではセールのはだけ等7艇、ディンギーヤードでは横倒しになったもの等約15艇の被害、また、かもめ駐車場の仮設バースでは約25艇の被害がありました。



### 3. 附帯事業等

- (1) 利用者利便事業として設置してあるレンタル自転車の利用料は、「神奈川海岸美化財団」に寄付いたしました。
- (2) オリジナル商品の前年度売上の一部は毎年日本水難救済会の「青い羽根共同募金」に寄付しています。今年度は長年の寄付行為に対して、同会から感謝状が贈られました。



- (3) 東京 2020 公式グッズの販売は、オリンピックムードを高めるとともに、ワールドカップシリーズ等国際的な大会等で来日している各国選手からも好評を博しています。

### 4. 開かれた港湾に向けての取組

- (1) 障がいの有無や年齢に関わらず安心して乗船できるハンザクラスのヨットの普及活動を行うNPO法人セイラビリティ江の島の活動の後方支援の他、関係団体、NPO法人等が実施するイベントについて、その内容が開かれた港湾に向けて資するものについては、できるかぎり協力しています。
- (2) 江の島（湘南港）みなとまちづくり協議会主催の、ハーバーフェスティバルや江の島天王祭の神輿海上渡御を海から見るイベントには、今年度も体験乗船の抽選や当日の事務局として積極的に携わり、また実施にあたり、弊社レスキュー艇による体験乗船や観覧艇の運行などの協力をしました。
- (3) かながわシープロジェクト「Feel SHONAN」の一環である「ENJOY 海 KANAGAWA」に積極的に参加し、帆船やまゆりの乗船体験やハンザクラスディンギーの体験乗船を実施するほか、市内県内のケイタリングカーによるフードコートや、延べ 180 余人に参加していただいた「江の島ヨットハーバーに関するクイズに答えながら散歩するクイズラリー」の開催により賑わいづくりをいたしました。
- (4) 2020 年東京オリンピックのセーリング競技会場周辺を花と緑で飾り、世界中から訪れる人々を歓迎するために設立したボランティア団体である「なぎさフラワーサポーター」の活動は 3 年目に入り、今年度はワールドカップシリーズの開催にあわせ、センタープロムナードに「2020」の花文字花壇がサポーターの手により造られ、来港者へのおもてなしに貢献いたしました。
- (5) 社員が作成し、ハウス 1 階に掲示した「身近にいる海の危険生物」と「2020 オリンピックセーリング競技の艇種」のパネルは、説明文を日本語、英語の併記にし、外国人も含めたヨット利用者のみならず、一般利用者も足を止めていただいています。

※4.(1)~(5) 別添写真のとおり